

カトリック 仙台教区報

No.258

2025年5月1日

発行：カトリック仙台司教区
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
Tel. (022)222-7371 Fax. (022)222-7378
発行責任：仙台教区広報委員会
URL <http://sendai.catholic.jp/>

から はか 空の墓から

主のご復活、 おめでとうございます。

主イエス・キリストの復活を語る最も短い福音箇所は、マルコによる福音の 16・1-8 です。

1安息日が終わると、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメは、イエスに油を塗りに行くために香料を買った。2そして、週の初めの日の朝ごく早く、日が出るとすぐ墓に行った。3彼女たちは、「だれが墓の入り口からあの石を転がしてくれるでしょうか」と話し合っていた。4ところが、目を上げて見ると、石は既にわきへ転がしてあった。石は非常に大きかったのである。5墓の中に入ると、白い長い衣を着た若者が右手に座っているのが見えたので、婦人たちはひどく驚いた。6若者は言った。「驚くことはない。あなたがたは十字架につけられたナザレのイエスを捜しているが、あの方は復活なさって、ここにはおられない。御覧なさい。お納めした場所である。7さあ、行って、弟子たちとペトロに告げなさい。『あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。かねて言われたとおり、そこでお目にかかれる』と。8婦人たちは墓を出て逃げ去った。震え上がり、正気を失っていた。そして、だれにも何も言わなかった。恐ろしかったからである。(新共同訳聖書より)

この箇所は、3年に一度、復活徹夜祭のミサで朗読されますが、最後の8節が省かれます。あえて、この朗読されない節について黙想したいと思います。

この節について、空の墓を見た女性たちにとって、「復活」ということが信じられないほど、人間の理解を超えた出来事だと言いたかった、という解釈があります。天使のメッセージに対する女性たちのおびえたような沈黙は、マルコの福音書を読み直すと、最初から人々が何度も、イエスの行いや啓示に驚き、沈黙し、恐れ、恐怖さえもって反応していることに



カトリック仙台教区 教区長
ガクタン エドガル司教

気づくでしょう(例えば、1:22; 1:27; 4:40-41; 6:50-51)。主イエスの教えと奇跡は、神が個人的に私たちの間に来られるという驚くべき神秘を現しているのです。ですから、

聖書の物語において、沈黙については神との出会いによって一時的な仮のものの沈黙であって、彼女たちは、天使のメッセージが適切な聴き手である弟子たちに伝わるまで、沈黙を守ったのです。女性たちが、主イエスを死者の中からよみがえらせた神のみわざ(16:6)、そしてガリラヤで起こるイエスの出現(16:7)に関する天使のメッセージを最初に受け取った時、逃げたり、震えたり、驚いたり、沈黙したり、そして恐れしたりしていました。これらの行動は、復活という神の最大の行為に対するふさわしい反応でした。

女性たちは主イエスの死とその埋葬を経験しており、墓を訪れば十字架につけられた死体が見つかると思っていました。しかし、主イエスの死という状況を劇的に逆転させることで、神は人間の条件を一変させ、新しい日の光へと自ら女性たちと私たちを導いてくださいました。

登場する3人が驚くのは当然のことですが、驚きと喜びと恐れという複雑な感情の中で、彼女たちは立ち尽くし、言うべき言葉も見つかりませんでした。この女性たちとともに、私たちも、主イエス・キリストの死からの復活という素晴らしい不思議な出来事に、静かに敬意を表す必要があります。しかし、私たちは、神の勝利をしるしている空の墓から何度も信仰の歩みを始めます。十字架につけられた主イエスは引き上げられ、私たちの前に出て来られるのです。私たちは、主の後に従いましょう。

写真は元寺小路教会小聖堂の十字架、磔刑ではなく復活のイエス様として祭壇正面に掲げられている

14年目の3.11

東日本大震災犠牲者追悼・復興祈願ミサ



東日本大震災の犠牲者追悼と復興を祈願し、毎年仙台教区カテドラルにおいて静かにミサが捧げられてきた。今年も、200人以上の人が同じ思い、同じ心で集うシーンとした静かな聖堂に2時46分の時を告げる鐘の音が響き渡り、全員起立し、それぞれの意向を胸に、深く頭を垂れ祈りをささげた。

それから入祭の歌が歌われるなか、佐々木博、高橋昌、川崎忠紀、兪鍾弼、塩田希、氏家和仁各神父に引き続き、イグナシオ・マルティネス神父、平賀徹夫名誉司教、ガクタン エドガル司教が入堂し、ミサが始められた。

説教はガクタン司教が次のように語った。6日前の灰の水曜日に、私たちは「あなたは塵であり、塵に帰ることを記憶せよ」といわれ、頭に灰を受けた。灰は、人間の存在のはかなさ、もろさを象徴するもの。

2週間前に発生した大船渡山林火災の猛火で、大船渡教会の信者の中には何人もの人が避難しなければならなかったが、灰の水曜日に降った大雨で、山林火災は鎮圧された。ニュースで雪と雨が降ったことを感謝している人々の姿を見て、自然にダニエル書の自然現象を次々に取り上げて神を賛美し、感謝する歌を思い出した。

第1朗読で読まれた「哀歌」の内容は悲しみそのものである。しかし、悲しみの中で、神に信頼し、

神が憐れみ深い方なので、見捨てられることはない、と確信している。

四旬節の典礼の呼びかけは、シンプルで豊かなものである。自分の死を思い出すことで、今この瞬間が、神に出会う確実な場であるということの確信を持つことが大切である。

災害は多くの被害をもたらし、いのちを奪う。しかし私たち人間はこの苦しみに直面しても、支え合い、助け合って、希望を持ち続ける力がある。この希望こそが、私たちが前進し続ける力となるものである。

震災の中から生まれた短歌を紹介しながら、神のやさしさ、慈しみ深さを感じさせながら、その神に信頼し、希望を持ち続けることの必要さを訴えられた。

Sr. 長谷川 昌子(仙台教区広報委員)



カトリック新聞休刊にともなう新しいメディアの紹介

カトリック中央協議会では、これまで毎週発行されてきたカトリック新聞が3月をもって休刊となり、4月以降、下記の新しいメディアで情報を発信していくこととなりました。ぜひご利用ください。

●ウェブサイト「カトリックジャパンニュース」

URL <https://cj-news.org>

教皇やバチカンの動きをはじめ国内外のニュースを配信するサイト。パソコンやスマートフォンでご覧できます。(無料)

●ウェブサイト「カトリックジャパンポータル」(予定)

教会外の方に、カトリック教会を案内するためのポータル(入り口)となるウェブサイトも始まる予定です。

●紙媒体「カトリックジャパンダイジェスト」

(タブロイド判、12ページ/月1回発行)

「カトリックジャパンニュース」で配信された記事のダイジェスト判を紙媒体として発刊します。

全国の教会、修道院、カトリック学校、カトリック施設に無償で配送されます。

各小教区へは、ミサにあずかる信徒数に応じて、一定の部数が配布されます。

従来の個人購読のシステムがなくなりましたので、インターネットの利用が困難な方や、さまざまな理由で教会に行けない方のためにもご利用ください。

仙台キリシタン殉教祭



仙台教区聖年の巡礼所にもなっている「仙台キリシタン殉教碑」(仙台市西公園内)の前で殉教祭が行われた

2月23日(日)午後1時30分から始まった仙台キリシタン殉教祭は、寒風の中での殉教祭であったが、殉教者の信仰故に受けた苦しみをしのび、200余人の参加者が、誰一人「寒い」「大変」と漏らす人もなく、神への愛と信仰と希望の熱が感じられた一日であった。

今回は、仙台司教区の第4地区が担当で、それぞれの教会でのミサ後、参加希望者が各自巡礼の心で参加した。ご高齢の参加者は車で集まった方もおられたが、多くの人は、仙台駅から、または、元寺小路教会から、北仙台教会から徒歩で参加した人も多く、繁華街の中を三々五々と行く巡礼者の姿は、人目を引いていた。



ガクタン エドガル司教の初めの言葉のあと、全員で「聖年の祈り」を唱え、「仙台キリシタン殉教録」の朗読を聞いた後、殉教の場所であった広瀬川に向かい黙祷をささげた。

聖書朗読は、マタイ福音 5・1～12、「山上の説教」が読まれた。その後、ガクタン司教がメッセージを話された。最初に広瀬川の9人の殉教者の名前が読み上げられた時、何とも言えず魂がふるえた、とあとで感想を述べた参加者がいたが、参加者の多くがそう感じたのではないだろうか。この9人が心に持

っていた宝物、彼らの強さの源は、今読まれたみことば、イエスの言葉であった。イエス・キリストの証し人となったこれらの殉教者は、現代に生きる私たちの道しるべである。キリストの「山上の説教」で示された道しるべをたどり、私たちの先に進んで歩いてくださった方である。

聖書の最後に置かれている書「黙示録」には「主において死ぬ者は幸いである。」(黙示録 14・13)と書かれている。感謝の心で、主において命を捧げた殉教者たちを思い起こし、私たち信徒の母であり、天の門である神の母マリアに、そして殉教者たちに、私たちの旅路のために執り成しを願いましょう、とメッセージを閉じた。

各教会の信徒が心のかもった共同祈願をささげ、主の祈りとアヴェマリアの祈り、栄唱のあと、「全免償の授与宣言」が与えられ、祝福をもって、この殉教祭が終わった。

Sr. 長谷川 昌子(仙台教区広報委員)



「仙台キリシタン殉教碑」(制作：仙台教区 深澤守三 神父)
1642年2月 ディエゴ・カルヴァーリョ神父と8人の信徒が広瀬川で殉教したことを記念して建てられた。

性虐待被害者のための祈りと償いの日

3月21日(金)午後6時から、仙台教区の「性虐待被害者のための祈りと償いの日」ミサが、カテドラル元寺小路教会でささげられた。

この「性虐待被害者のための祈りと償いの日」は、教皇フランシスコが、子どもや女性に対して、教会のメンバーが犯した罪の責任をしっかりと意識できるよう神により頼む日として、全世界の司教団に定めるように通達したのは、2016年のことであった。

これに応じて日本の教会は、四旬節第2金曜日をごこの日と定めた。仙台教区では、毎年ミサをささげることにしており、今年も3月21日午後6時にミサをささげた。主司式は小野寺洋一司教総代理が務め、教区事務局長のイグナシオ・マルティネス神父と仙台西部ブロックの兪鍾弼神父、カテドラルブロックの高木健太郎神父が共同司式した。

ミサの初めに、小野寺神父が、この日が定められたことを述べ、ミサを始めた。ことばの典礼では、第一朗読として、使徒ヨハネの手紙1の1・5～2・2



が読まれ、福音はルカ 7・36～50が朗読された。説教として、日本カトリック司教協議会会長・菊地功枢機卿が2月1日付で出された手紙を、小野寺神父が全文をゆっくりと読み上げた。その後しばらく沈黙で祈りの時をもち、共同祈願、感謝の典礼と続き、交わりの儀で、聖体を拝領し、祝福を受け散会した。寒い日にあたり、参加者が少なかったのが残念であった。

Sr. 長谷川 昌子(仙台教区広報委員)

子どもと女性の権利を守る委員会 相談窓口

仙台教区では、教会や教会関連施設での性虐待やセクシャル・ハラスメントについての相談窓口を開設しています。

各小教区にチラシやカードを配布しておりますので、お気軽にご相談ください。

電話：090-5187-4959 (受付時間/月曜と土曜日 10:00～16:00)

Mail：catholicsendai.ch.w@gmail.com (24時間受付)



仙台教区のうごき 司牧奉仕者のつどい

2月17日(月)、2024年度最後を飾る「司牧奉仕者のつどい」が元寺小路教会信徒ホールで開催された。参加者は27人であった。



ガクタン エドガル司教の祈りと励ましのあいさつの後、司教から2025年度の第1次人事異動の発表がされた。(人事異動の表は、最後のページ参照)。

今回は地区別司牧奉仕者のつどいのため、各地区別に分かれての集まりであった。地区ごとに1年間の振り返りの中で、今年の年頭書簡「駅伝」を受けて、

今後各地区では優先課題として、何を大切にしなければならないかの話し合いをした。

復活祭以降の人事異動による地区の動きもあり、年頭書簡を通して仙台教区の歩み、聖年の恵みの年に、各地区、各ブロック、各小教区の歩むべき道、方向性、課題について積極的な話し合いができた。

昼食後は、司牧奉仕者として、自分たちがまず巡礼しようと、カテドラルの聖年の扉を通り、広瀬川巡礼碑まで徒歩で巡礼した。徒歩が不安な司祭のためには、車での送り迎えもした。少し肌寒い日であったが晴天に恵まれた中を歩いた。殉教碑の前で祈りがささげられたが、特に広瀬川で殉教した彼らの取り次ぎを願い、これからの仙台教区の歩みの上に神の導きを祈った。

有益な一日、恵み深い一日は、現地解散ということで、午後3時に殉教碑前で解散した。

仙台教区事務局長

イグナシオ・マルティネス神父

各地区からのお便り

第1地区より

〈三八ブロック／八戸塩町教会・鮫町教会〉
—75年の宣教の歴史に幕—
聖ウルスラ修道院 感謝のミサと感謝の集い
ありがとう、聖ウルスラ修道院塩町修道院、
感謝！ 感謝！！



75年前にカナダ人シスター4人が八戸市で宣教活動を始めて以来、八戸塩町教会と鮫町教会はシスターたちの献身的な活動に支えられ導かれて、現在の各小教区へと成長しました。塩町修道院が3月31日に閉院するため、2025年3月23日(日)の四旬節第3主日に佐藤守也神父様の司式で八戸塩町教会にて鮫町教会との合同で「聖ウルスラ修道院感謝のミサ」。ミサの後に「感謝の集い」を行いました。スライド上映で75年の歴史を振り返り、修道院から記念品として、「アンジェラ・メリチ」の絵の額などが塩町教会へ贈呈され、塩町教会からも修道院へ記念品を、そして有志から修道院へ「霊的花束」の額を贈呈しました。これは88名の有志の寄付により、「聖ウルスラ修道院への感謝」のミサを八戸塩町教会で今後88年間、アンジェラ・メリチの祝日である1月27日の前の主日に続けることをお知らせしております。その後、会食での送別会となり、それぞれが、思い出話に花を咲かせるひと時を過ごしました。聖ウルスラ修道院の皆様の仙台での活躍とご健康をお祈りするとともに、本当にお世話になりました。ありがとうございました。神に感謝！！

牧山 智廣 (八戸塩町教会)

第3地区より

〈宮城北部ブロック〉
古川教会・石巻教会 合同黙想会

昨年12月1日に待降節の合同黙想会を古川教会で開催したのに引き続き、3月9日の四旬節第一主日にガクタン司教様のご指導で合同黙想会を石巻教会で開催しました。

司教様の主司式、ミゲル神父様の共同司式のミサ、昼食をはさんでの司教様の講話を通して、信仰生活で大切なことについて、いろいろな助言と励ましを



与えていただき、とても良い祈りと黙想のひとときを持つことができ、司教様とも楽しく交流することができました。また、シノドスについてもご自身の体験をまじえていろいろと解説していただきました。

古川教会と石巻教会は、一昨年9月にも大籠教会の合同巡礼を行うなど交流を行ってきました。今後も、交流を続けていければと思っています。

大野 隆 (石巻教会)

第4地区より

こどもの祈りの集い「広瀬川殉教碑巡礼」

2月11日(火・祝)、小1～高3まで20人の子どもたちと保護者とともに二つの巡礼をしました。一つ目は聖年の話を聞き、行列をしてカテドラルの聖なる扉を通り、聖堂で祈るという小さくて短い巡礼で



した。一人ずつ聖年のしおりにスタンプを押し、聖年のキャラクター「ルーチェ」のキーホルダーをもらい、二つ目の巡礼地「広瀬川殉教碑」へ出発しました。

サマーキャンプ以来の再会で盛り上がる子、リーダーと話しながら歩く子、親子や兄弟と歩く子等それぞれのペースで歩きました。その中にイグナシオ



神父様、ギャリー神父様、高木神父様、そして一巡礼者としてガクタン司教様が！ 思いがけないサプライズでした。ところが祈りの集いを始めると猛吹雪で震えるほどの寒さとなったのです。極寒の広瀬川に沈められた殉教者の苦しみをほんの少し体験できたという声が聞かれました。年齢や興味関心に応じて殉教について知り、約50人の参加者とともに祈りをささげたこと、最後に司教様から祝福をいただいたことなど、お恵みたくさんの巡礼となりました。日々の生活に精一杯の中、子どもたちを連れてきてくださった保護者の皆さん、ありがとうございました。またお会いしましょう。

教会学校リーダー会 佐々木 いつみ(八木山教会)

〈仙台東部ブロック・仙台西部ブロック〉 聖年のスタート ～殉教祭～

2月23日(日) ガクタン司教様の司式により行われた仙台キリシタン殉教祭は、とても寒い一日でしたが、ベトナム語ミサ後巡礼に来られた方々も加わり、仙台城に向かう大橋のもとに200人以上が集いました。散会のときにはあちらこちらから「今日はよかったね」との声が聞こえ、信仰で心が一つになる喜び、共に祈り合う喜びに満ちあふれていました。

今回担当となった四つの小教区(北仙台、西仙台、東仙台、塩釜)は、教皇メッセージ「希望は欺かない」



を心に留め、神様に招かれているという思いで準備してきました。後日「この協力体制は一つの小教区のようなだった。まさに～シノダリティ～共に歩むことの実現ね！」と語り合いました。



殉教者の姿は通常聖年のロゴマーク、希望の巡礼者のかわいらしいイラストそのもの。世間の荒波に錨を下した十字架にしっかりとつかまり、しかも一人ではなく、仲間と寄り添ってつながることが信仰の灯をともし続けるために大切なことと思いました。

殉教者の思いを受け止めながら、現代を生きる私たちも共に励まし合いながら、希望の綱にしっかりとつながっていきたく思いました。

佐藤 則子(塩釜教会)

教区の諸活動

第12回(2025)いのちの光 3・15 フクシマ ～フクシマが背負ってきたもの伝えつづけるもの～

今年は3月15日(土)～16日(日)の2日間の開催で延べ90人が参加しました。

1日目、原町教会での現地報告を中筋純さん(写真家・おれたちの伝承館館長)に「アートを通じて伝える原発事故」をテーマにお話いただきました。

ご自身は大震災当時、渋谷のど真ん中にいたそうです。原子力災害、原発事故の恐ろしさはあらゆるものが見えないこと。東京に住んでいる人が使うコンセントの向こう側、差し込みの向こうへ行くと浜通りにつながって行くなど、想像力をかき立てる話と写真が新鮮でした。

日本の原発は壊れないとずーっと思っていたが、自分も安全神話に侵されていたと痛感。水俣病を記録したドキュメンタリー映画監督土本典昭さんの生き方に学び、大震災の写真をワンボッスカーにぎゅうぎゅう詰めにして40か所近く全国を行脚したそうです。福島原発事故は現在進行形だが、それが中々



伝わらないし、皆忘れていく、写真はダイレクト過ぎて、最大の力が最大のあだとなり公の場所が借りられないなどの現状に直面したそうです。若手アーティストの協力があり、南相馬市小高区に「3.11&福島原発事故伝承アートミュージアムおれたちの伝承館」を設立。そのプロセスの話を聞いて私も訪ねたいと思っています。写真家としての目線での話は若い世代に聞いてもらう大きなツールだと感じました。



派遣ミサは幸田和生名誉司教主司式、松浦謙神父(大阪教区シナピスセンター長)による共同司式です。ミサ説教では冒頭、「ここが汚染された危険な場所などと思ってほしくない」と言われました。ここで暮らす多くの人が、不安でこの場所から去った人たちの両方の思いを大切にしたいと思っているし、放射能汚染もなくなってほしいと願う気持ちも話されました。ここでの問題を日本、世界の人びと皆で考えてほしいと切に願っていると話を続けます。14年経っても汚染、被曝、避難は終わっていません。安全神話は崩壊し、原発事故は必ず起きるのです。それでも原発を続けていくのか、福島原発事故から何を学んだのか、原発に頼る理由は何なのか、40年後の廃炉!?ができるかと考えているのかを政府に問いかけました。



40という数字はキリスト者にとって特別な数字で、四旬節は40日間、イエスが40日間荒野で断食をしたなどいくつか歴史上での例を上げました。これからの40年は自分たちのためではなく、新しい世代のための年月です。致命的な問題ですが、この難題を次世代に押し付けるのは無責任とも話されました。今日ここに集まった私たちは、原発事故を忘れないように、自分の生き方、これからの日本、世

界の在り方と向き合い続けましょう。いのちの光を探し求め続けること、すべての命を尊重するために肯定し合える世界が訪れるよう、精一杯の祈りと働くことができるようにと思いを込めて話され、参加者も祈りました。(福音朗読箇所マタイ5・43-48) 狩浦正義神父(名古屋教区)、光延一郎神父(イエズス会)もご参加くださいました。



2日目、カテドラル元寺小路教会での講演会は、「内部被曝の治療をライフワークとする医師が語る被曝の健康被害の真実」をテーマに西尾正道先生(国立がんセンター名誉院長)の熱い思いのお話です。



現代は「今だけ・金だけ・自分だけ」の社会になってしまった。いかに原子力政策で、私たちが操作されているかを賢く、しっかりと見つめていかなければならないと痛感しました。

実行委員は、いわき、原町、仙台と小教区は離れていますが、開催への思いを共にして準備を進めることができたことに感謝です。小さな力ではありますが、教会内外の方々と協力して集いの大切さを考え、祈り、これからも発信できればと思います。いのちの光を共に探し求め希望の光となるよう願いつつ。

いのちの光3・15 フクシマ実行委員

木元 範子(北仙台教会)

仙台教区広報委員・地区広報委員総会 開催

3月20日(木・祝)広報委員と地区広報委員が年に一度集まる総会が、元寺小路教会で開催された。

今年は、広報委員会の会長であるガクタン エドガル司教や若干の委員が所要のため出席できなかったが、小野寺洋一神父やイグナシオ・マルティネス神父をはじめ、9人が参加し仙台教区の広報について話し合われた。

会議では、広報委員会が発行している仙台教区報

や、教区のホームページについて積極的に意見交換がなされた。また、イグナシオ神父から通常聖年における巡礼や活動の動き、これからも続くシノドスについての話など、盛りだくさんの議題が討議され、広報に関わる環境が変化していく中での情報発信の大切さを感じる有意義な会議となった。

関 毅(仙台教区広報委員)

仙台教区本部 教 区 長：ガクタン エドガル 司教 司教総代理：小野寺 洋一 教区事務局長：イグナシオ・マルティネス 太字：新任・転任			
地区	ブロック	小教区 ()は巡回教会	担当司祭 ◎印は地区長 ()は所属 ▷は居住地
第1地区	弘前	弘前、五所川原、黒石	小松 史朗(仙台教区) ▷弘前
	青森・下北	本町、(松丘)、浪打、大湊、野辺地	◎李 錫ノイ ソク(韓国 光州大司教区) ▷浪打
	三八	八戸塩町、鮫町、十和田、(五戸)、三沢、久慈	パトリック・カストロベルデ(淳心会) ▷八戸塩町 ジャスティン・ルクサ 協力司祭(淳心会) ▷八戸塩町
第2地区	盛岡	四ツ家、盛岡上堂、志家	板垣 勤(仙台教区) ▷四ツ家
	岩手中部	花巻、北上、水沢	◎マルコ・アントニオ・デ・ラ・ロサ(グアダルペ宣教会) ▷水沢
	岩手沿岸	遠野、宮古、釜石	堀江 節郎(イエズス会) ▷釜石
第3地区	岩手南部	一関、千厩、築館、(新生園)	渡辺 彰宏(仙台教区) ▷一関
	三陸	気仙沼、大船渡、米川	バサ・イグナシウス・クリスティアヌス(神言会) ▷大船渡
	宮城北部	古川、石巻	◎ヴァレラ・ミゲル(グアダルペ宣教会) ▷石巻
第4地区	仙台東部	塩釜、東仙台	アンリ・パティバンガ(淳心会) ▷東仙台
	仙台西部	北仙台、西仙台	◎兪 鍾弼ノユ チョンピル(ドミニコ会) ▷北仙台
	仙台南部	一本杉、豊屋丁	ギャリー・ゲストベオ(淳心会) ▷司教館
	カテドラル	元寺小路、八木山	イグナシオ・マルティネス(グアダルペ宣教会) ▷元寺小路 高木 健太郎 協力司祭(仙台教区) ▷元寺小路
	県南	亘理、角田、大河原、白石	小野寺 洋一(仙台教区) ▷白石
第5地区	中通り北	松木町、(桑折)、野田町、二本松	マチアス・アントニオ(エスコラピオス修道会) ▷野田町 グエン・カオ・トゥリ 協力司祭 (エスコラピオス修道会) ▷野田町
	会津	会津若松、喜多方、南会津	會津 隆司(仙台教区) ▷会津若松
	中通り南	郡山、須賀川、白河	◎佐藤 修(仙台教区) ▷郡山
	浜通り	原町、いわき、(湯本)	幸田 和生 名誉司教(東京教区) ▷原町
〈教区外へ異動〉 ポール・トー(ケベック外国宣教会)、ロペス・ホセ・アウセンシオ(グアダルペ宣教会) 森田 直樹(京都教区)			
〈研 修〉 申 東賢ノシン ドンビン 助祭(韓国 光州大司教区)▷司教館 〈協力司祭〉佐々木 博、高橋 昌、佐藤 守也、川崎 忠紀 〈引 退〉平賀 徹夫 名誉司教、 塩田 希(イエスの小さい兄弟会) 〈第2司祭の家担当〉氏家 和仁			

編集後記

通常聖年が始まり、教区内外や海外から巡礼者が訪れるようになりました。皆様は心をこめてお迎えしていることと思いますが、これを期にもっと多くの方に仙台教区に来ていただき、仙台教区を知っていただければと思います。

仙台教区広報委員会では、皆様から原稿を募集しています。投稿は随時受け付けていますので、下記のアドレス宛てにメールでファイルをお送りください。手紙の場合は教区事務所宛てに郵送してください。(関 毅)

c-hasegawa@blue.ocn.ne.jp

次号発行予定日：7月1日 原稿締め切り：5月18日